

大阪大学大学院医学系研究科における 大学院/人材育成の現状と展望

1. これまでの議論

2. 大阪大学における大学院/人材育成の取り組み

リーディング大学院

橋渡し研究支援推進/早期探索的拠点事業プログラム

国際医工情報センターの人材育成

未来医療研究人材養成拠点事業

3. あり方

4. グローバルヘルス教育研究拠点の創設



大阪大学大学院医学系研究科

澤 芳樹

大阪大学大学院医学系研究科 における学位の質の議論 (@2010)

- Thesisでの審査の議論
- Peer review雑誌での審査
- 予備審査
- 優秀者の選出評価Incentive
- 大学院生の単位制度についての見直し

大学院のあり方の議論

- 基礎系と臨床系の大学院生のキャリアデザインの違い
- 大学院大学に対する社会や企業の評価は？
- グローバルに通用する人材育成に対する世界の評価は？
- 新専門医制度の発足学位の価値は？
- 大学院院生数の増加
- 社会人大大学院の位置づけ

大学院/学位に対する新しい価値の創造が必要



大阪大学大学院医学系研究科リーディング大学院 生体統御ネットワーク医学教育プログラム



医科学領域で、
グローバルに産学で活躍する
リーダーを育成する新規大学院プログラム

所属する研究室で専門性を追求することに加えて、

- ・多様なバックグラウンドを有する教員による医科学融合領域教育
- ・産業界の大学院教育への参画



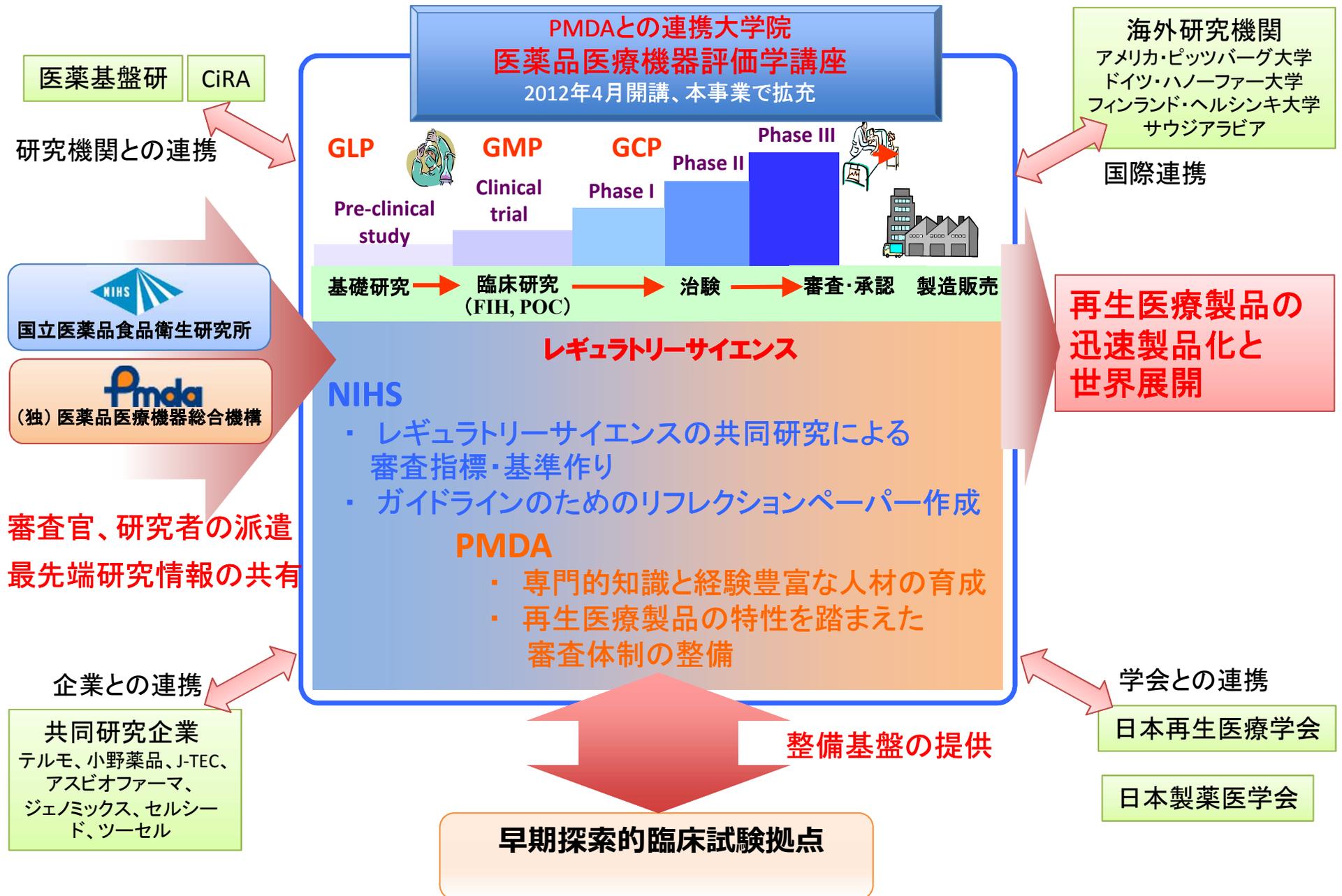
産業界の大学院教育への参画



グローバル教育の実践

医科学を統合的に理解し、
その社会応用も実現する人材育成

革新的医薬品医療機器再生医療等促進事業における人材交流





文部科学省「橋渡し研究支援推進プログラム」 医薬品・医療機器開発プロフェッショナル教育

医薬品・医療機器開発における若手人材育成

□ 医学部学生
橋渡し研究に関する講義必修化18時間(臨床医学特論)ほか

□ 薬学部学生
Pharm Dコース(3ヶ月)
分野配属(3年)

□ 大学院・社会人等に対するプロフェッショナルコース(選択)

TRセンターにおける若手プロフェッショナルOJT

モニタ(2名)、薬事担当(2名)、PM、DM、CRC、GMP担当、GLP担当等

再生医療エキスパート育成プログラムの確立

MEIcenter

クリニカルリサーチプロフェッショナルコース

観察研究の統計的方法

医学統計学サマースクールA
(前半・後半)

医学統計学サマースクールB
(前半・後半)

臨床試験のデータマネジメント

臨床試験のデザインと解析
(隔年度開催)

臨床試験デザインの実際

医薬品の臨床評価の過程：入門

医薬品開発における臨床薬理学の基礎

医薬品の開発計画

医薬品の審査と規制

臨床試験デザインの基礎

医薬品の市場とライフサイクルマネジメント

医薬品・医療機器開発におけるグローバルな人材育成

STANFORD
biodesign

医療機器開発の
アントレプレナー型
教育プログラム
Executive向け

JAPhMed連携

PharmaTrain
MASTERING MEDICINES DEVELOPMENT

医薬品開発にかかわる大学院水準の欧州教育プログラム

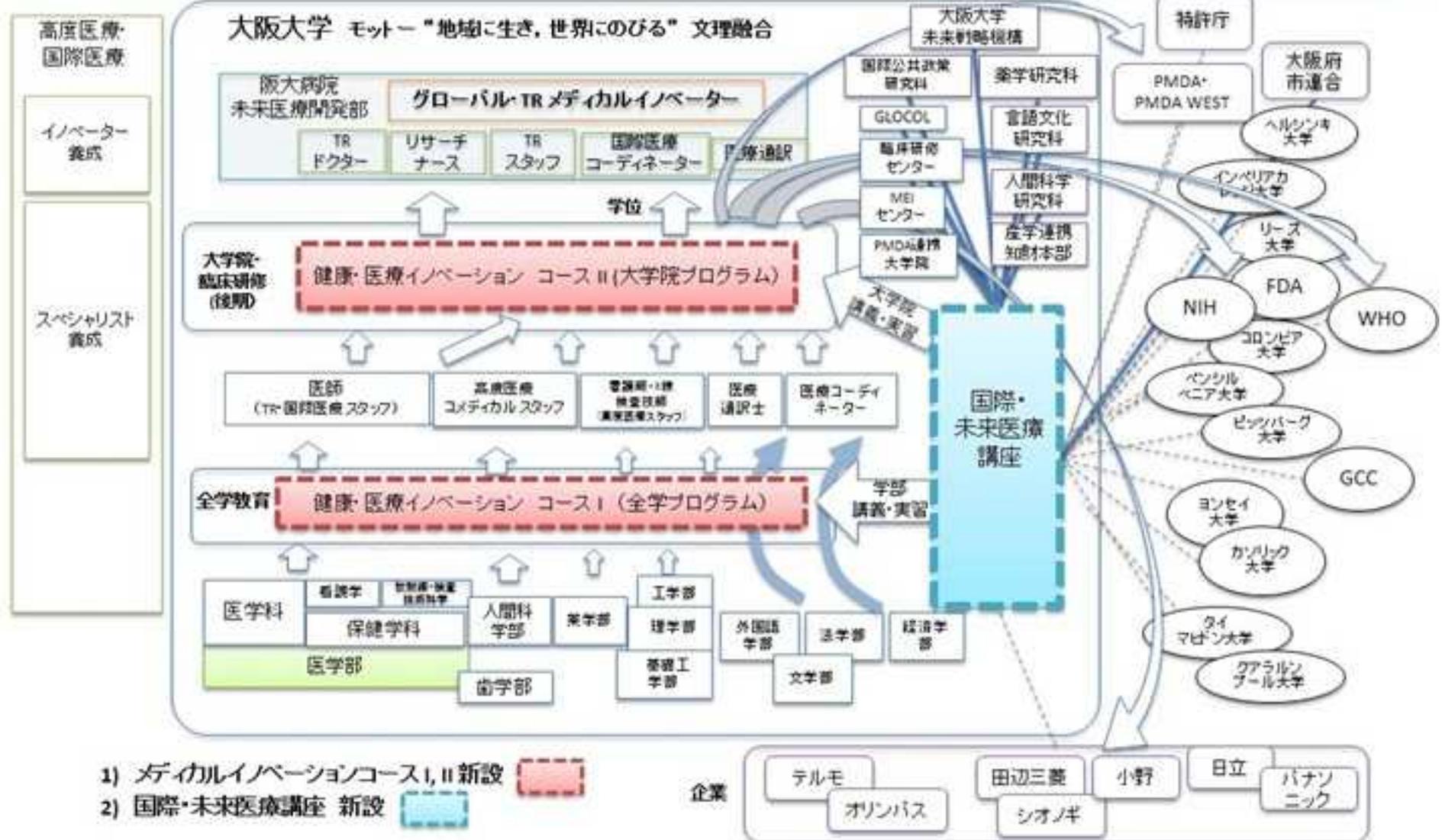
文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」

課題

- ◇ アカデミア創薬・医療機器開発の実用化に向けた教育不足
- ◇ 医療国際化に対応する人材育成の未整備
- ◇ 医学部以外出身者の医療イノベーションへの参入不足

解決

- ◇ 国際・未来医療研究人材養成コース形成
- ◇ 総合大学の特色を活かした全学共通医療イノベーション教育コース新設



医学系研究科大学院の今後のあり方

- 基礎・臨床を問わず多様性 (Diversity) に対応する未来医療人 (メディカルイノベーター) を育成
- MD以外の人材を世界 (WHO, FDA, NIH, グローバル企業) で活躍する医療人に
- 臨床系は専門医制度 (指導医資格等) との連動が必須
- Incentive や評価による啓発により、価値を創るきっかけを
- 企業や社会の必要性を考え、企業も参加する優秀な人材育成で能力給に反映できれば

グローバルヘルス教育研究拠点の創設（案）

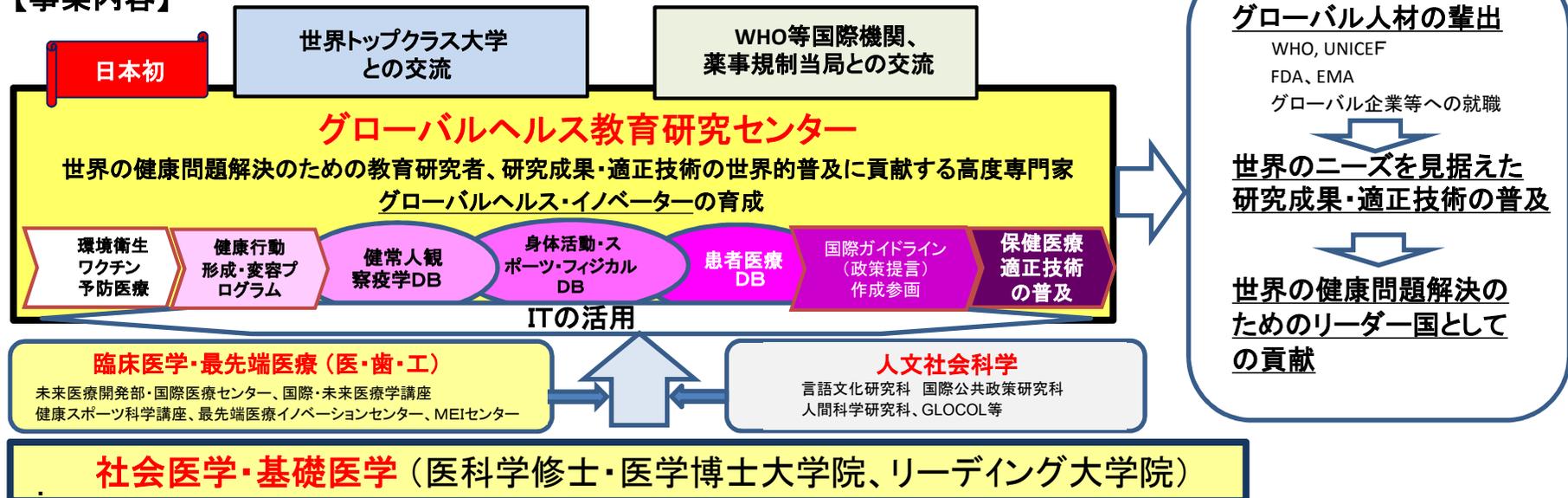
【背景・課題】

- 世界の健康問題は、過去30年間で栄養失調・感染症から、国際感染症と生活習慣病へ大きくシフト
- 人類の健康の維持・増進に貢献するには、これまでの国内の公衆衛生活動や他国への保健医療援助では不十分
- 世界の健康問題に対し、新たな国際的視点をもって、その解決に導く、グローバルヘルス・イノベーション人材が必要

【必要性・緊急性】

- 世界的な少子超高齢化の潮流の中で、健康寿命をいかに延伸するかは、グローバルヘルスの最重要課題
- 日本が歴史的に栄養失調・感染症・脳血管疾患等を克服したことや、少子超高齢化の健康問題への対処は世界の注目の的
- 公衆衛生マインドを有し、高度な科学的知識・技能を備え、世界の健康問題解決に導く人材の育成・輩出が緊要

【事業内容】



【期待される効果】

- グローバルヘルス分野の世界トップレベル大学との、学部生・大学院生・教員の相互交流による研究促進と人材育成と
- WHO等の国際機関やFDA等の薬事規制当局等で働く人材の増加による、研究成果・適正技術の世界的普及を加速化
- 保健医療分野におけるアジア最大のリーダー輩出国としての国際貢献